

江州音頭継承に思う

鎌倉家 五代目 桜川 徳丸
伊藤 耕造 (甲賀市)

私は五代目徳丸と申しまして、桶家二代目徳丸流の派に属します。音頭取りを初めて四十数年経ちますが中々満足出来る音頭が取れません。しかし年月だけが過ぎ去ります。今振り返ると音頭取りなどの老齢化が進み継承者がいなくなるのではないかと、これは現在の音頭取りの責任ではないかと思っております。後世に残すには後世に伝えられる即ち教えられる人材の育成が必要である。江州音頭普及には人材を育てる事が欠かせないのではないかと、派閥を超えて音頭取りの育成が大切である。今活動されている音頭取りの方に協力を依頼しては、協力者の応募をしては、誰が担当しても色々な意見が出ると思うが普及会の名において責任を持つと言う事で進行すれば良いのではないかと、教えて人材を自分の手の中にしたい事が必要である。誰がならぬ私も参加したい。又、コンクールなどの開催、若い人中心のイベント開催を進めて行きたい。個別の依頼も受けたい。



津軽三味線全国大会に江州音頭の出演をして

滋賀県江州音頭保存会 桜川 陽湖
大和田 陽子 (大津市)

三味線と津軽民謡の全国大会が毎年大津で開催されています。今年は浜大津の大津市民会館大ホールで十二月二十八日と二十九日実施されました。コロナ禍で観客は例年より少なかったものの、この2日間で百三十四名の出演者が2日とも朝9時30分から20時まで、全国から出演者が来られました。この2日間、途切れることのない三味線を中心とする大会に江州音頭の当保存会も出演場所をなくなくなるのを食い止めるよう工夫をしてみました。

音頭も立ち行かなくなりつつあります。益々音頭場が消えゆく可能性があり、これはなかなか治るには時間がかかるでしょうし、なかなか手こずるでしょう。とはいえず、まあ再開出来るはともなう音頭がポロポロではいただけません。今こそ組合を入れ直して、一度江州音頭の奥深い所を勉強し直しましょう。何も対面ばかりで練習でもありません。最近流行りのリモートでもやれるはず。かけ放題の契約をして、師匠の門を叩きましょう。練習ができたなら、江州音頭のコンクールをやりたい。

2021年江州音頭だより

滋賀県立大学 湖風祭実行委員会企画部部長
清水 厚志 (京都市)

滋賀県立大学では、去年の2020年は新型コロナウイルスの影響により湖風祭(うみかぜなまつり)を開催する事ができませんでした。例年ですと、滋賀県の伝統芸能江州音頭を行い、滋賀県立大学の学生や江州音頭協会の方々だけでなく、彦根市の地域の方々も一緒に江州音頭を踊りました。皆で笑顔で江州音頭を踊ること、滋賀県立大学に地域一体感が生まれ、よい思い出となり。しかし、その願いも新型コロナウイルスの影響で閉ざされてしまいました。2020年11月18日(日)にはオンライン湖風祭を行いました。コロナ対策に重きを置き、YouTubeで配信を行うことでオンラインという形で湖風祭を実施することができました。自分自身初めての体験で戸惑う部分や分からない事もたくさんありましたが、とても良い経験になりました。

会から踊りグループ「豊郷町江州音頭保存会」に出演していただきました。江州音頭の発祥地の踊りを全国に広げるため、華やかで上品な扇子踊り、又見せるための美しい手踊り。この三つの踊りがステイジらしく披露されました。

音頭取りは桜川梅玉様、ギター等豊富な楽器演奏のもと若手踊り方の皆様も含め、絵にかいた様な舞台でした。この三味線の大会には北海道から鹿児島、また海外からは台湾の演奏者も出演されました。出演時間は3分30秒でエンタリー料(出演料)は平均7000円です。

東近江江州音頭会館オープン

東近江江州音頭愛好会 会長 三代目眞鍮家 文好
小椋 祥行 (東近江市)

江州音頭だより46号で掲載していただきました東近江江州音頭会館が昨年8月30日にオープンしました。振り返ってみると、2月9日の太子ホールの発起人会には10人の有志が集まり、設立のための総会を行いました。まだ、コロナ感染も広がりはじめたところ、世界中がこんな大変な事になろうとは知るよしもありませんでした。

それから毎週のように会議を重ね、どうやら江州音頭の会館ができるという話が広がったのが、資料や備品も色々な方から提供していただくようになり、オープンまで毎日のように会館に出かけ、試行錯誤しながら手作りで何とか格好をつけることができました。しかし、がんばって工夫に工夫、いくら工夫を凝らしても、先立つものはやはり資金金をお借りしたところ、多くが皆様から寄付を頂くことができた。この浄財があれば開館に至ることは難しかったと思います。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。次第ですが、しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により文化

今年の湖風祭は6月19日(土)の予定です。今年こそは皆さんと江州音頭を踊り、地域の皆さんと江州音頭の伝統を継承していきたく思っています。コロナ対策をしっかりして安心して安全に行おうと考えていますので、皆さんで江州音頭を踊り、地域を盛り上げていきましょう!!

コロナ禍の江州音頭

あいの土山江州音頭普及 福永 昭子 (甲賀市)

昨年、「甲賀の昭和」と言う書籍が出版されました。昭和の街並みや人々の暮らしが、目でわかる写真全集です。そのなかで私は郷土芸能江州音頭の頁に関わりました。当時は、農作業は勿論家事、育児、全て自身の労働力の日営でした。

そのなかで、女性達は、お盆の掃参を待ち侘び、在所で行われていた盆踊りは、何よりの息抜きでした。令和二年、コロナ禍のなか、地域でも行事は中止され、各会の運営も盛んならず、この閉塞感、過去の女性達の盆踊りを待ちわびる気持ちと、形は異なっても相通じるところがあります。

私も、県下の皆様と各地を訪問しました。普及活動に思いをはせつつ、踊る機会を考えていました。折しも、甲賀市レクリエーション協会が、例年のクリスマス会が開催されました。早速、江州音頭を踊ることを提案し、会長も同意され、会員も都めつせに参加する人もあり、元気一杯踊ることができました。

法衣や、お面も用意し、層盛り上りました。三密を避け、窓を開け、マスク姿の、この江州音頭は生涯忘れたい思い出となることでしょう。更に心身共にすっきり江州音頭は、最高でした。本年は佳い年にしようと念じて...

湖国を代表する江州音頭

豊郷町江州音頭保存会 藤野 恵津子 (豊郷町)

昨年の滋賀医科大学リレー・フォー・ライフ・ジャパンは、コロナウイルス感染症予防の関係で、10月24日(土)25日(日)にネット配信により実施されました。

活動はほぼ停止状態となりました。ただ、ここで止まってしまうのは江州音頭もなくなってしまうという危機を感じ、何だか議論を重ねながら、4月に予定していた江州音頭会館の開館式を行う決心をいたしました。コロナ禍の中、市長はじめご来賓の方々にご臨席頂き、開館式並びにテープカットを行い、記念口演会として座敷音頭、柳音頭などを披露いたしました。会場には、最小限の人数でしたが、YouTube、Facebookでライブ配信いたしました。次々入ってくる、「いいね!」に手こたえを感じた瞬間もありました。

またケーブルテレビや新聞各社にも掲載していただきました。ラジオの番組にも出演した結果、反響が大きき遠方からも来館者が来て下さるようになりました。市内の小学校からの見学や、出前の授業などの要望もいただき応えています。やはり市内の子供たちが、郷土芸能に興味を持ってくれたことが一番の喜びでありました。子供たちが届けてくれたお礼状は、われわれの宝物になっていきます。

コロナ禍、家で過ごそう

湖東文楽サークル 桜川 貴美若
佐野 公治 (湖南市)

カセットテープから流れてくる師匠の声は、僕の宝物!「繰り返して、何度か聞けよ」とよく言われたが、そのテープが劣化する中で、MDに転写したのだが、いつの間にかその便利MDが何故か販売中止!?仕方なくSDカードにまた転写し直し中なのでは(汗)

※コロナ禍が長引き祭事が殆ど無くなった今、録音して「家で過ごすよう」吹き込み挑戦してCDに残してみたい。音頭取り、名だけ残りして声残さず?では寂しいですね。

これは、学生が作るガン制圧と患者支援のチャリティーイベントで、がん医療についての講演や講座が開催されました。その中で、滋賀県の伝統芸能である江州音頭を、発祥の地である豊郷町が、扇や絵日傘を持って踊る機会が得られて、全国に発信することができました。

豊郷町江州音頭保存会では、伝統文化の江州音頭を次世代に伝承していくことと、子ども教室を立ち上げて、3年目になりました。先人たちが残してくれた江州音頭は、豊郷町の誇りであり、大人になって踊りを継承し、湖国にアピールし続けてほしいと願っています。

盆踊りの思い出

大津江州音頭保存会 森本 珠代 (大津市)

滋賀県には主人の転勤に伴い、家族で移り住んで30年、子供達もこの大津で成長しました。しかし30年間は江州音頭との出会いは有りませんでした。

昨年、大津駅近く引越してからの、江州音頭との縁を思い出しました。私は大阪生まれの大阪育ちで、夫はスクールソングの一角にありました。夏休みも終わりに近づいた頃、夫は盆踊りでした。学校の校庭の真ん中に櫓が組み立てられ、放射線に提灯が張られ、普段は真つ暗な学校が賑やかな盆踊り会場に変わります。うちをもち、浴衣を着た人達がソラソラと家の前を通って学校へと集まって来ます。心もウキウキ、賑やかな河内音頭に誘われて友と行くのが楽しみでした。どう踊ったのかも覚えていませんが、あのワクワク感だけは今でも残ります。江州音頭の成り立ちや掛け声の意味などを教えて頂き、河内音頭もその流れを汲む物であることを、興味深いお話を聞かせていただきました。

また、皆様の郷土愛に接し、是非、保存費に力を入れていかねばと思つて来ます。ここで育った子供達が将来何処で生活をする事になつても、江州音頭の思い出が、郷土愛と共に残りますようにこれからも活動に参加させていただきます。

普及会会員の皆さんがCDの吹き込みに挑戦すれば、レベルの底上げになり良いと思う。コロナ禍のイベントの一つとして、如何でしょうか?

20数年ぶりに復活

念老舎 江州音頭 鈴木 俊亮 (東近江市)

金念寺の境内墓地には江州音頭を始めた櫻川大龍(西澤寅吉)と眞鍮家好文(奥村九左衛門)の墓がある。平成15年には、門弟によつて「顕彰碑」も建立された。西澤寅吉は旅籠で板前修業していたが、宿泊者の祭文語りから歌祭文を習った。「歌真」と呼ばれ、余興に招かれた。

その後、武蔵国の櫻川山に出会う。「錫杖でなく「法螺貝」を使う」ドレン節に刺激を受けて、「八日市祭文」を完成したようだ。弟子の眞鍮家好文という協力者を得て、近江各地を回った。西澤寅吉は師匠の「櫻川山」の「櫻川」をもらい、櫻川大龍と名乗った。

令和に入り、20数年ぶりに、金念寺境内で盆踊りが行われた。毎年、8月21日は、湖東地域では夏の興行が終わり、最終のお盆盆踊りが、実施されていた。平成に入り、金念寺本堂改修工事が始まり、寺の境内での実施が不可能となり、しばらく野々宮神社で行われたが、支援体制が不備で、継続することが出来なくなった。

令和に入り「眞鍮家二門」の協力により、20数年ぶりに復活することが出来た。昨年(令和2年)はコロナ禍で、中止せざるを得なくなった。念願の東近江市市立江州音頭会館が同じ金屋の地に誕生した。展示物が日に充実し、滋賀県の江州音頭センターとなりつつある。江州音頭教室も行われ、発祥の地東近江市から、全国に発信するという意気込み。菩提寺金念寺としても感謝している。

江州音頭の黎明期?

玉家三代目家元 櫻川好玉 櫻川 好五
竹岡 虎造 (伊賀市)

江州音頭のみならず、有りとならぬものに影響を及ぼした憎き新型コロナ。皆さんは、いかがお過ごしでしょうか。梅も舞台もよつとした会合の余興でさえ、なくなつてしまいました。憎き新型コロナ。今年も? こんな調子?

コロナ対策明るく歌おう江州音頭「笑門来福」不許複製

作詞・柳村 桜家 天勝
深尾 勝義 (近江八幡市)

世の中、持ちつ持たれつ。伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ。尾張名古屋は城で持つ、名古屋帯は紐で持つ。コロナ追いつ出す手綱持つ、みんな笑顔で希望持つ。窓を開けよう、換気して元氣。扉も開けて、気持ちも大きくオープン。楽しいから笑うんじゃなく、笑うから楽しいんだ。もう一つは福来る。もらいたくはないものもある。来るな! コロナ! だいきらい! スカイホームで、新たな絆。家族で話す、よい機会。

感染症予防は、「三密」やめて密閉、密集、密接あかん。スマホにパソコン、タブレット、離れた人との優れもの。コロナが気になる生活は、近づかないよう要注意。一人一人の心がけ。準備しておく、チャンスは来る。成功するには最後まで、あきらめないを合言葉。楽しいことは率先して、最後に喜ぶ人になれる。歌を唄うと心が晴れる。声は腹から出すがよい。江州音頭があるでしょう。

今、私たちに出来る事、コロナに負けない事、免疫力でアップしよう

尼江州音頭普及会 桜川 捨噴
木村 噴夫 (甲賀市)

コロナ、コロナで、外出も控えなければならぬ、運動不足になりがちです。そこで、「二つ運動を紹介いたします。一つ目は太極拳から由江州音頭、花の生涯の唄を入れて、「練功十八法」で彦根の空に響え立つ。天守閣こそだれあろう。御高千穂と五万石。二つ目はコロナ替え歌&体操、これはライン仲間から、届いたものです。「上を向いて歩こう」の曲から、上を向いて歩こう。コロナに負けない様に、思い出すSARSの日、それ以上の感染力、上を向いて歩こう。コロナに負けないように、手洗いと、うがいと。...

コードを読み取り、QRコードを読み取り、元氣を取り戻して江州音頭の普及活動、宜しくお願いします。



上を向いて歩こう コロナ替え歌体操